

日々いきいきと

教育目標



明るい子
強い子
考える子

入間市立豊岡小学校
令和4年度 **23号**

入間市向陽台1-1-14番地

TEL 04-2964-5286

令和4年9月21日

児童数 383名

SNSから子供を守る

学校長 村越 新

朝日新聞（R40920）に「後絶たぬ SNSでの子供被害」という記事がありました。昨年度、県内だけで159人の18歳未満が事件被害に遭ったと報じています。殺人被害もあったようです。

この記事では、子供にインターネットを利用させる際の注意点として、以下の6つを挙げています。

- 年齢や学年に応じて利用のルールを決める
- 保護者がネットの危険性を具体的に教える
- 「フィルタリング」機能を利用する
- 他人に見られて困る画像・動画は友達にも送らせない
- どうしても送信、投稿が必要であれば住所や学校を推測できる情報が写らないようにさせる
- スマホの位置情報をオフにして撮影させる



各ご家庭には、スマホやゲームについてのルールがあると思いますが、それを見届けることが何よりも大切だと思います。本校でお願いしている「メディアルール」でもお伝えしていますが、部屋にスマホやゲームを持ち込んだら黄色信号です。何をしているかを見届けることができないからです。

この記事には次の記述もあります。

全国的に目立つ手口は、大人がSNSで知り合った子どもの相談に乗り「慰めてあげる」などと言って誘い出すものだ。わいせつな行為や撮影をし、その事実を脅迫材料に再び呼び出す。相談内容は人間関係や身体の悩みなど。・・・

日ごろから周りの大人が相談に乗ってあげていれば、このような被害はないはずです。顔の分からない、優しそうな（悪い）大人を選ぶ子供はいないはずです。ルールと日ごろの見届けで、子供をSNSから守ってあげたいものです

「スマホ危機 親子の克服術」石川結貴、文春文庫 2021.9 より

◆ゲーム障害の概要（WHO）

- 1 ゲームに対して自制が利かない（開始、頻度、強度、期間、終了）
- 2 他の生活上の興味や日常的な活動よりもゲームが優先
- 3 ゲームによって悪い結果が生じているにもかかわらず、ゲームを継続、頻度がエスカレート

◆依存傾向が強くなる特有の反応：「ゲームをやめるよう」に説得したときの反応

- 1 否認 やり過ぎを認めない、ゲームの必要性を訴える
- 2 隠蔽 「わかった」と言うが隠れてする、「勉強している」とうそをつく
- 3 過小評価 「そんなに使ってない」「他の人に比べれば少ない」など
- 4 禁断症状 ゲームをしていないとイライラする
- 5 自己中心的態度 周囲の注意に耳を貸さず

◆スマホ依存に陥る「三大元凶」

- 1 「なし崩し」 ルールがあっても、次第に子供が守らなくなる
- 2 「見て見ぬふり」 注意しても耳を貸さないと、親が根負けする
- 3 「子ども任せ」 詳しくない、分からないからと子どもの好き勝手を許す

◆問題解決には

ルール作りや利用制限、いじめ対応など、すべてに共通するのは「**子どもの声**」を聞く必要がある。彼らはスマホ利用の当事者であり、**親の知らない世界**で様々なことを経験している。ほとんど実態を知らないまま、一方的に親の考えを**押しつけた**ところで、真に子どものためになるのだろうか。

ルールを守らない子どもが悪い、SNSやオンラインゲームに夢中の子どもを変えたい、そう言う発想を切り替えて、**まずは親自身**がこれまでの対応を変えていく姿勢を持ってほしい。「わからない」からと対応を投げ出さず、あるいは一方的な思い込みで責めることなく、親は**子どもの声を聞くことから**始めて欲しい。自分なりに調べたり、情報収集したりして、子どもと一緒に考える機会を作って欲しい。

お願い

一人一台端末タブレットは、**有効に使えば**たいへんに効果のある学習道具です。その反面、学習以外で使用することにより、**学習時間が減っている**子もいます。タブレットは**個々を磨くために**市より貸与されているものです。だからこそ毎日持ち帰っています。

タブレットによって、学習時間が減ったり、視力が低下したり、親の言うことを聞かなくなったりすることのないように、**しっかりと看視**をお願いします。